

88 もののべ 物部の銅印 どういん



指 定 市有形文化財 平成5年7月1日
 所在地 清 川
 所有者 上原 政彦

白田清川の上原氏居宅の庭で、「物部楮丸」^{もののべのちよまろ}と刻まれた銅印が明和3年（1766）丙戌春出土し、現在に伝わっている。

大きさは3.4cm四方、高さ2.6cm。押印の際持つ^{つか}掴みの部分は花のつぼみの形で、中央に穴があり、飾り紐を通した形（有孔蒼紐）^{ゆうこうそうじゆう}になっている。

奈良大学文学部の水野正好教授（考古学）によると、この銅印は平安時代のもので、フルネームのものは珍しく、また印は役所に文書を差し出す際に使用するものなので、佐久地方に私印を使える有力な豪族がいたことがわかる貴重なものであるという。

文化14年（1817）丁丑正月、井出道貞は、この古器の発見のいきさつを「銅印記」として記している。また、「信中古器真図」^{しんちゆうこきしんず}にも、明治天皇の天覧に供された古器であることが載っている。

県下では重要文化財に指定されている諏訪大社下社の「賣神祝印」^{めがみほうりいん}、松本市和田の三間沢川左岸遺跡からの「長良私印」^{ながらしいん}と刻した平安時代中期の青銅製印（大和古印）^{やまとこいん}が他にあり、群馬県では「物部私印」^{もののべしいん}と刻んだ古印が2個出土している。佐久市長土呂からは、平安時代の「伯万私印」^{はくまろしいん}と刻した石製の印が出土している。